

二〇〇四(平成一六)年度 研究所報告

一 組織

所長 兵藤 一夫
主事 浅見直一郎
委員 宮下 晴輝(文学部長)
藤坂 初裕(事務局長)

大内 文雄(大学院文学研究科長)
築山 修道(短期大学部長)

一楽 真(学生部長)

高井 康弘(入学センター長)

沙加戸 弘(真宗総合学術センター長)

一郷 正道(教授・仏教学)

友田 孝興(教授・ドイツ文学)

若槻 俊秀(教授・中国文学)

二 研究組織

〔指定研究〕

大学史研究

研究課題

研究員

「大学史関係資料の収集・整理・公開」
安富 信哉(チーフ・教授・真宗学)

織田 顕祐(助教授・仏教学)
加来 雄之(助教授・真宗学)
東館 紹見(専任講師・日本仏教史学)
水島 見一(専任講師・真宗学)
福島 栄寿(真宗大谷派教学研究員)
加藤 基樹(博士後期課程満期退学)
日野 圭悟(博士後期課程在学)
森 剛史(博士後期課程在学)

国際仏教研究

研究課題 「諸外国における仏教研究の動向の把握と必要

資料の収集・整理」

研究員 Robert F. Rhodes(チーフ・教授・仏教学)

門脇 健(教授・宗教学)

木場 明志(教授・国史学)

延塚 知道(教授・真宗学)

木越 康(助教授・真宗学)

井上 尚実(専任講師・真宗学)

田村 晃徳(任期制講師)

嘱託研究員 羽田 信生(毎田周一センター所長)

Jan Van Bragt(南山大学名誉教授)

Mark L. Blum(ニューヨーク州立大学助教授)

Paul Watt(デポー大学教授)

藤枝 真(非常勤講師)

研究補助員 小川 直人 (非常勤講師)
齊藤 研 (博士後期課程在学)

小澤 千晶 (博士後期課程在学)

西蔵文献研究

研究課題 「チベット語文献のデータベース化」
研究員 小谷信千代 (チーフ・教授・仏教学)

白館 戒雲 (教授・仏教学)

福田 洋一 (教授・仏教学)

三宅伸一郎 (専任講師・チベット学)

嘱託研究員 ケツン (西蔵大学蔵学系講師)

Steven Hartwell (Multiscript Solutions International, Paris, France)

野村正次郎 (特別研究員)

研究補助員 都 真雄 (博士後期課程在学)

井内 真帆 (博士後期課程在学)

羽塚 高照 (博士後期課程満期退学)

漢文文献研究

研究課題 「浄土教関係文献の調査と研究」

研究員 藤嶽 明信 (チーフ・教授・真宗学)

一色 順心 (教授・仏教学)

三木 彰円 (専任講師・真宗学)

采畢 晃 (専任講師・仏教学)

嘱託研究員 梶浦 晉 (京都大学人文科学研究所助手)

藤谷 昌紀 (任期制助手)

研究補助員 義盛 幸規 (博士後期課程在学)

三木 朋哉 (博士後期課程在学)

大谷大学DB研究

研究課題 「大谷大学所蔵貴重資料のデジタル映像化」

研究員 草野 顕之 (チーフ・教授・日本仏教史学)

片岡 裕 (教授・情報工学)

松川 節 (助教授・東洋史学)

山本 貴子 (助教授・図書館情報学)

柴田みゆき (専任講師・コミュニケーション論)

杉山 正治 (任期制講師)

兵藤 一夫 (所長・教授・仏教学)

浅見直一郎 (主事・助教授・東洋史学)

嘱託研究員 箕浦 暁雄 (非常勤講師)

研究補助員 有松 志保 (博士後期課程在学)

前田 千尋 (文学部卒)

〔一般研究／共同研究〕

研究課題 「石刻史料から見た近世中国仏教の社会史的変遷に関する基礎研究」

研究員 桂華 淳祥 (代表者・助教授・東洋史学)

松川 節 (助教授・東洋史学)

協同研究員 西尾 賢隆（花園大学教授）

松浦 典弘（大手前大学助教授）

藤原 崇人（非常勤講師）

井黒 忍（任期制助手）

研究課題 「レッシングの戯曲と宗教的啓蒙精神の研究」

研究員 友田 孝興（代表者・教授・ドイツ文学）

吉田 孝夫（専任講師・ドイツ文学）

芦津 かおり（専任講師・英文学）

研究課題 「平安時代古記録の研究」

研究員 佐々木令信（代表者・教授・日本仏教史学）

東館 紹見（専任講師・日本仏教史学）

協同研究員 頼富 本宏（種智院大学長・教授）

赤尾 栄慶（京都国立博物館文化資料課保存修理指導室長）

杉本 理（非常勤講師）

堅田 理（非常勤講師）

〔一般研究／個人研究〕

研究課題 「悲劇論」との関連におけるヘーゲルの「反省論」の研究」

研究員 門脇 健（教授・宗教学）

研究課題 「『列仙全伝』の研究」

研究員 佐藤 義寛（教授・中国文学）

三 指定研究の動向

大学史研究

（1）近代以前の大学史関係資料の収集と整理

慶長以降の大谷派学寮における講義・典籍・関連事項の記録等について年表形式でのデータ化に着手し、あわせて本願寺派学林年表のデータ化にも取り組んだ。本年度中に、大谷派学寮年表は明治中期、本願寺派学林年表は嘉永年間までのデータ化が終了した。

（2）近代以降の大学史関係資料の整理と公開

一、真宗学事研究・大学史編纂研究収集の資史料

①複写史料のデータベース化

『大谷大学百年史』刊行の基礎史料として収集・使用したものを、今後の公開に向けて整理し、データベース化した。

②学寮以後新制大谷大学までの各時代の史料

長期保存に向けて中性紙封筒にて史料を管理し、史料と既成データとの照合・再調査を行った。

③写真史料の保管作業

二、『清沢満之全集』刊行後の事後処理

①『全集』発刊に際して収集した資料の整理

『全集』未収録の自筆資料（東京大学・帝国大学時代に清

沢が受講した講義ノートや書物から抜き書きしたノートなどの
の翻刻・校正作業を行った。

②『全集』テキストデータの校正作業

『全集』全九巻中第六巻までの校正を行った。

③清沢満之関係資料の調査

愛知県碧南市清沢満之記念館、大谷大学図書館にて行った。

④清沢満之資料フィルム・デジタル画像のデータベース化

⑤清沢満之に関する質問・資料提供への対応

国際仏教研究

通常の研究業務(文献収集、国際学会への研究員派遣など)

以外に、以下の活動を行った。

①英語圏に関するもの

清沢満之・曾我量深・金子大栄・安田理深の代表的論文八本の英訳を完了し、“An Anthology of Modern Shin Buddhist Writings”とつづきニューヨーク州立大学から出版予定であるが、本年度は同書に掲載する資料として、四氏についての Bibliography を作成した。

三月二四・三〇日に東京で開催された国際宗教学宗教史会議第一九回世界大会に、「『悪の自覚』と現代社会―親鸞思想を中心として―」と題するパネル企画をもって参加した。

②ドイツ語圏に関するもの

一九九九年からマールブルク・フィリップス大学福音主義神学部との間で開始された共同研究「仏教とキリスト教との

対話」の研究成果を引き継ぎ、今年度はマールブルク大学ディードリッヒ・コルシュ教授の『マルティン・ルター』の翻訳に着手した。また、マールブルク大学実践神学教授ゲルハルト・マルセル・マルティン氏の「不安と宗教」をはじめとするいくつかの論文の翻訳作業をも進めている。

さらに、二〇〇五年五月には第五回ルードルフ・オットー・シンポジオンが開催され、再び本研究班の研究員も発表者として参加する予定であり、そのための研究会を重ねた。

②韓国語圏に関するもの

協定関係にあるソウルの東国大学校との間で一九九八年に開始された第一次の共同研究「韓日仏教信仰比較研究―浄土思想を中心として―」は、その成果を韓・日双方で公刊し、終了した。その後、第二次の研究を始めるために、二〇〇五年三月にソウルで研究準備会を開き、「仏教における信の問題」を共通テーマとして共同研究を再開することを確認した。

西藏文献研究

①チベット現地研究機関・研究者との共同研究体制の構築

二〇〇四年夏、研究員三名・研究補助員一名をラサに派遣し、西藏大学文学学院講師ケツン氏招聘のための折衝を行った。また、パツァブ、ギュー・ラカン、ランタンなどベンポ地方のカダム派系古刹を訪問、現状調査を行った。九月には北京・中国蔵学中心を訪問し、宗教研究部門のトップであり本研究所にも滞在した経験をもつダムドゥル氏、および本学で博士

号を取得された慧光両氏と会見した。ラサ入りの後、西藏大文学学院および西藏社会科学院、西藏図書館、西藏博物館を訪問し、将来の共同研究体制構築に関する具体的な意見交換を行った。またラトナー、ジャン、サンブ、ラデンなどカダム派系寺院の現状調査も行った。

ケッソ氏は十月十六日から十一月二十三日まで本学に滞在され、その間七回にわたって講義をいただいた。テーマは『アヴァダーナ如意蔓』第二十四章「ヴィッシュヌヴァンタラのアヴァダーナ」の解説であった。本学大学院生が中心となり、事前に予習会をして講義に臨んだ。その成果として、当該章のチベット語テキストおよび和訳を Web 上で公開した（和訳：<http://web.otani.ac.jp/cr/twpr/studo/avadana/avadanakalpalata24-jitradukajo.html>）。また十一月十七日には「チベット文学史における『古代・近代・現代』という時代区分について」という講題で、公開講演会を行っていた。

②北京版チベット大蔵経コロフォン・データの構築

訳経史やテキストの伝来を知る上で重要な史料である北京版チベット大蔵経カンギュル部所収全テキストのコロフォン（奥書）について、テキスト・データベースの構築に取り組み、二〇〇四年度中に終了した。そのデータは現在 Web ページ上で公開されている（<http://web.otani.ac.jp/cr/twpr/studo/kolofono-kanjur/enhavo-kolofano-kanjur.html>）。

③TLKのバージョン・アップ

MacOSX 用試作品に見られるワードラップや結合の問題などは二〇〇四年度内に解決することができなかった。今後の課題とした。

④バーリ語文献研究の終了に伴う、収集資料の整理と研究バーリ語文献研究が収集した『バンニャーサ・ジャータカ』に関わる資料を利用しやすい形に整理し、一部電子化を行った。

⑤その他

本学図書館所蔵稀覯チベット語文献の一つ、ゲイエ・ツルティム・センゲのテキストを電子化して暫定的校訂テキストを作成し、Web 上で公開した（<http://web.otani.ac.jp/cr/twpr/tibdate/rgya-bod-chos-vbyung-T.html>）。

漢文文献研究

二〇〇四年度は、親鸞の『教行信証』を対象を絞って、目録の整理及びその書誌情報の確認・調査を行った。

①本学図書館作成目録の総合化

本学図書館の複数の蔵書目録における『教行信証』の書誌情報を総合的に一覧できる資料を作成した。この作業によって、目録の書誌情報についての誤記も数点発見された。

②本学図書館作成以外の目録情報の整理

上記の資料に基づき、これまで『教行信証』に関して本学図書館以外で作成された書誌目録との照合・確認を行った。

③本学所蔵の『教行信証』の書誌情報整理

上記Ⅰ、Ⅱの作業を踏まえた上で、計一五件の確認・調査を行い、刊期・奥書・装丁等の情報を追加し、最終的に本学所蔵『教行信証』の請求記号別カードを二種類作成した。

④作業を終えて

今年度の取り組みをふまえて、今後は、他の浄土教関連文献、さらには本学が所蔵する膨大な数に上る仏教漢文文献についての総合的な目録の作成（データベース化）に着手することが大きな課題となろう。

大谷大学DB研究

①デジタル画像の公開について

大谷大学におけるデータベース構築の根幹をなすデジタル画像の制作、およびその公開に向けて様々な検討を重ねた。今年度の研究課題のひとつは、指定研究・清沢班が西方寺にて撮影してきた三五ミリポジフィルムの移管を受け、高精細スキャニング及びデジタル化の作業を完了したデータを、いかに公開していくかということであった。課題の遂行のために、二回の研究会と、六回に及ぶ作業部会を開催し、それらの作業を通じて、様々な問題点を浮き彫りにすることができた。

データ公開の第一段階として、学内のネットワークを利用して、教員を対象とし、テキストと画像を関連づけて検索ができる形式を構築することとした。研究の結果、データベース実現のためのXMLの設計、検索精度、検索スピード、不

正コピー対策といった諸問題が確認された。また、学内ネットワークによる公開とは別に、博物館などでスタンドアロンにてデータを閲覧する方途なども検討すべき課題となった。

②本学所蔵貴重書の撮影作業について

本学博物館が所蔵する北京版チベット大蔵経の撮影作業については、様々な試行錯誤を重ねたものの、結局、撮影を再開できずに今年度を終えた。

四『研究所報』の刊行

第四四号（四月一日発行）

学問と研究

二〇〇四年度「指定研究」研究組織一覧

二〇〇四年度「指定研究」研究目的紹介

二〇〇四年度「一般研究」選考結果発表

二〇〇四年度「一般研究」研究目的紹介

海外出張報告

彙報

木村 宣彰

第四五号（十月一日発行）

チベットへの旅

二〇〇三年度「指定研究」研究経過報告

二〇〇三年度「一般研究」研究結果概要

彙報

小谷信千代

執筆者紹介

桂華 淳祥

本学教授

門脇 健

本学教授

友田 孝興

本学教授

吉田 孝夫

本学助教授

芦津 かおり

本学助教授

佐藤 義寛

本学教授

白館 戒雲

本学教授

ケツン

前真宗総合研究所嘱託研究員

中国・西藏大学蔵学系講師